

## ◆資源・環境対策事業

### 漁協・漁業者主体の資源管理構築（トゲクリイロナマコ）

（資源管理体制推進事業）

水産業改良普及センター 紫波俊介 佐多忠夫

#### 1. 目的

本活動は、久米島においてナマコ類資源の持続的利用、有効活用を図るため、同地で主に漁獲されるトゲクリイロナマコ（以下「トゲクリ」という）を主対象として、漁業者が継続して実践できるナマコ類の資源管理体制を検討していくことを目的とした。

なお、本取組は資源管理体制推進事業を用いて実施し、昨年度の取組みから、沖縄県資源管理計画に初めてナマコが記載されることとなった。

#### 2. 方法と結果

昨年度に引き続き、下記を実施した

##### （1）生物学的知見の収集

久米島におけるトゲクリの産卵盛期の推定や、その過程で知りえた情報の収集（前項参照）

##### （2）資源・流通状況把握

市場水揚げデータの収集

##### （3）久米島漁協ナマコ資源管理報告会

漁協職員・組合員に対し、上記知見の報告および、（独）水産総合研究センター廣田将仁博士による県外ナマコの流通・加工の現状報告。

ナマコは中国には歴史的にも根強い需要がある事、沖縄においては単価上昇傾向である事、10ヶ月程度の禁漁では資源回復の傾向が見られないナマコ資源回復の脆弱性等について報告した。また今後ナマコ利用の漁協・漁業者の目標

値を設定し、漁獲しながら漁協が水揚げをモニタリングし、冬季でのナマコ漁解禁期間設定と漁獲努力量、総水揚量、下限・平均サイズ等解禁期間中断への複数のルール作りを行い、漁協が資源状況を把握しながらルールを見直し、水揚げを調整することを繰り返し、地域に即したナマコ利用を実施する事を提案した。

##### （4）資源管理方法検討

漁協の今後の資源管理方法を

- ・冬季1～2ヶ月程度のみナマコ漁を解禁
- ・ナマコ水揚げ下限サイズ設定
- ・総水揚げ量5tになった場合、ナマコ漁解禁終了

とし、水揚げモニタリングしながら資源管理方法を再検討していくこととなった。

#### 3. 考察

ナマコ利用目標値が設定されなかったこと、それに伴う漁獲努力量制限が設定されなかったこと、総水揚げ量が多いこと（昨年度水揚げ1.8t）、一部漁業者は禁漁に消極的であることが課題と思われるが、今後管理活動を繰り返すことにより、改善していくことを期待したい。

個人的には、漁協職員・漁業士らとの管理活動を行う中で、漁業士・漁協職員が一体となってナマコ以外の新たな漁業（ヒトエグサ養殖等）へ取組む体制が整った事が喜ばしかった。



仲与志・田端漁業士、伊関女史



組合長、職員への報告・意見交換



久米島漁協ナマコ資源管理報告会



(独) 水産総合研究センター廣田将仁博士



佐敷中城漁協田中支所長の案内でヒトエグサ養殖  
先進地視察



ヒトエグサ漁場探索